

## 歴史民俗資料館の事業活動

歴史民俗資料館と古民家園では、地域の歴史や生活文化を学び体験できる催しや学習活動を行っています。

### ●地域のくらし体験

古民家園では、地元の農家の方を講師に招き、麦やさつま芋などの昔から地域で育てていた作物の収穫体験を行っています。また、資料館ではボランティア団体と協働でかつて地域で盛んであった養蚕や機織りに関する体験イベントを開催しています。



### ●季節に合わせた年中行事

資料館や古民家園では、桃の節句や端午の節句、七夕飾りなど、季節に合わせて、市民から寄贈されたひな人形や五月人形などの展示や装飾をしています。また、古民家園の畑で収穫した作物を使って、十五夜飾り、もちつき、うどん作り、繭玉飾りなど、郷土の風習を知る体験学習を行っています。日中のいい春や秋には、古民家園で茶たてを行っています。

### ●小学校社会科学習の支援活動

「地域のくらし」の体験をテーマに、唐箕などの昔の生活道具を貸し出して解説する、小学校社会科学習の支援活動を行っています。

問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎ (525) 0860

川越道緑地  
古民家園

## 茅葺屋根の葺替え工事を行いました



古民家園「小林家住宅」の修理



▶所在地=幸町 4-65 ▶開園時間=午前 9 時～午後 4 時 30 分 ▶休園日=月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日 ▶入園料=無料 ▶駐車場=6台(普通自動車のみ)

川越道緑地古民家園では、砂川地域にゆかりのある歴史的な建造物「小林家住宅」(市指定有形文化財)と「須崎家内蔵」(市指定有形民俗文化財)を移築復元し、保存と公開を図っています。歴史ある建造物を保存するには定期的な修復が必要であり、その一環として今年4月から8月にかけて、「小林家住宅」茅葺屋根の葺替え工事を行いました。

今回の工事では傷みのない内側の茅はそのままに、主に南面、西面の表層の傷んだ茅を手作業で葺き替えました。材料となる茅は富士山麓から調達し、工法は地域に残る民家の茅葺屋根の意匠や伝統的な葺き方を可能な限り踏襲しています。このような文化財の修復では材料の調達や熟練した職人の確保が年々難しくなってきました。先人たちが築き大切に遺してきた文化財を保存し次世代へ伝えていくためには、皆様のご理解とご協力が必要になります。茅葺屋根の工事に関連して、古民家園では12月24日(日)まで「古民家園屋根葺替え工事写真展」を開催しています。また、11月23日(木・祝)には同園内で茶たてを行います。秋空のもと、黄金色に輝く茅葺きの屋根をどうぞご覧ください。

立川市の  
歴史と  
文化財

34

## 柴崎分水



中央線を跨ぐ柴崎分水(改修前)

今年の1月末に、中央線を跨ぐ鉄製の樋を鋼管に取り換える工事が行われました。樋には柴崎分水が流れていましたが、老朽化のため、鋼管に変更されたのです。工事に伴い中央線の上を水が流れる光景は見られなくなりました。

柴崎分水は玉川上水から引かれており、玉川上水に架かる松中橋の西側から根川緑道まで流れています。玉川上水は江戸の人々の飲み水を確保するために、羽村堰から四谷大木戸まで掘られた水路で、承応3年(1654)に通水しました。後に多くの分水が引かれ、水が乏しかった武蔵野の村々に飲料水や農業用水を提供しました。

玉川上水ができてからおおよそ150年後の寛政3年(1791)に書かれた『上水記』によると、柴崎分水は元文2年(1737)に開削されました。分水口(取入口)は上川原村地先(現昭島市)で、長さは1里半(約6km)、柴崎村と芋窪新田が利用していました。柴崎村は現立川市の南半分に当たります。芋窪新田は芋窪村(現東大和市)の人の手によって開発され、栄町の一部に当たります。松中橋の西側に柴崎分水取入口があります。玉川上水から分岐した柴

崎分水は、立川・昭島の市境付近を南東方向に向かって流れたのち、旧立川基地跡地昭島地区・昭和記念公園内に入ります。道路の拡張などによって、柴崎分水は蓋をされ暗渠になってしまった箇所が多いのですが、旧立川基地内に入る手前、東文化通までは比較的長く開渠が残っています。かつては旧立川基地内で二手に分かれ、ひとつは柴崎村へ、もうひとつは北立川をへて芋窪新田に向かっていた。昭和記念公園内を抜けると旧柴崎村に入り、富士見町・柴崎町・錦町を流れます。江戸時代の柴崎村の中心は、諏訪神社の南側に、現在の柴崎町や富士見町に当たり、集落は台地上に広がっていたので、柴崎分水は縦横に走っています。現在では暗渠になった区間が多いのですが、開渠になっている区間を手掛かりに、分水に沿って歩き昔の人々の暮らしをしのんでみてはいかがでしょうか。

明治22年(1889)に甲武鉄道(現中央線)の立川〜八王子間が開通した時、2か所で柴崎分水を横切りました。この区間は掘割で建設されたので、分水は分断されてしまいました。そのうち1か所は冒頭に書いた地点で、木製の橋(山中陸橋)と樋をかけました。その後、南に陸橋が移動し、樋だけになり、いつ頃は不明ですが、後に樋も鉄製に交換されました。

歴史民俗資料館では「立川の水路を探る〜玉川上水から緑川まで〜」を12月10日(日)まで開催しています。今回紹介した柴崎分水や玉川上水、砂川分水などを紹介しています。ご興味のある方はぜひ足をお運びください。